



☎ 591-7376  
akito.n@m3.  
dion.ne.jp

市議会議員 中野あきと事務所ニュース

# みどり清流

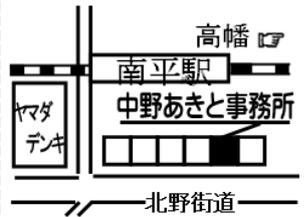
2005年 1月発行 第37号(新年号)  
日本共産党中野あきと事務所  
日野市南平7-6-72 ☎599-3350  
〒191-0041 発行責任者 小山敏正

しん 赤旗  
ぶん

日刊紙 1か月 2900円  
日曜版 1か月 800円  
お申し込みは  
南多摩事務所  
☎042-374-4384  
又は、中野事務所へ

生活・法律相談など

お気軽にお立ち寄り下さい



2005年

# 迎春



中野あきと事務所

## あたたかい市政、安心の日野実現へ 市議会議員・中野あきと

未曾有の災害に明け暮れた二〇〇四年がおわり、新しい年が明けました。今年四月に市長選、六月には都議選があります。いま市政は、まちづくりをめぐる市民の信頼が大きく損なわれる事態が続いています。豊田南、旭が丘、三沢のマンション建設をめぐる紛争や高幡の東電変電所問題など、いずれも住民の方々が立ち上がり、市政に住環境を守ることを要請しているにもかかわらず、市の対応はそれに充分応える対応とはほど遠く、不信をかかっています。

百草にある杉野学園グラウンドの売却と開発問題では、周辺の八つの自治会が連合して、日野市に抗議行なうに至りました。

まちづくりだけではなくありません。「お金が無い」といって子どもの予算を削り、父母や住民の反対を押し切り幼稚園や学校を統廃合する一方、鳴り物入りで進めた新撰組事業は大幅赤字です。

ここにきて市長は「これからは「夢」を」と強調しています。しかしその内容は総合体育館の建設や、甲州街道日野宿通りの復元、幹線道路整備など、数百億円にもなる巨大プロジェクトです。

四月の市長選では「市政転換」の一点で、様々な方と手を取り合い、必ず勝利したいと思えます。

昨年1年の活動をまとめました(裏面に続く)

### 子育て支援

#### 繰り返しの要求で、乳幼児医療費の助成拡充

- ◆繰り返して取り上げてきた乳幼児医療費助成の拡充については、10月から3才まで対象が広がりました。さらに9月議会で就学前までの拡充と都内のように小学生にまで広げることの検討を求めました。市長からは「毎年拡充する」「小学生についても検討する」旨の答弁がありました。
- ◆6月、9月議会で300人を超え深刻になっている保育園の待機児問題で質問。認可保育園の増設と、旭が丘保育園と第7幼稚園の施設統合問題についてただしました。

### 暮らし・地域要求

#### 住民の皆さんと共に問題解決

- ◆市の仕事を受注するのに必要な指名参加登録(一定規模以上の資金力、人的配置、実績などが必要)ができない市内の小規模業者にも、仕事を提供できるみちを提案し、商工会を窓口にして実現しました。(詳細はお問い合わせを)
- ◆東豊田の区画整理隣接地の環境悪化問題を、住民の皆さんと共に市や組合と話し合いをもち、解決はかりました。
- ◆その他、ミニバス路線の拡充や区画整理問題を取り上げてきました



住環境を守れ。市は役割をはたせ

●市内で乱開発やまち壊しが頻発する中、三月、六月、九月の議会で市民参加でつくった「まちづくりマスタープラン」に基づき、高さ制限など土地利用規制を条例で行なうべきだと提言してきました。今年制定予定の条例には、高さ制限が盛り込まれることになりました。

●九月議会では、斜面地の開発が大きな問題となり、一般質問で規制条例の制定を求めると共に、党市議団としても条例案を策定し提出。こつした経過の中で「規制できない」「裁判になる」としていた市長も、臨時議会を開いて市として条例を提案するにいたりました。



教育環境・30人学級

子どもの問題は待たなし。繰り返し要求

●三月、六月、九月の議会で学校校舎の老朽化問題を取り上げ、予算の抜本的増額で施設の改善をはかれと要求してきましたが、市長も「認識を改めなければいけない」と答弁。来年度予算編成にあたり最重要課題と位置づけられ、七生中や第一中の校舎改築が具体化されました。

●平山小と平山台小の統廃合問題では、繰り返し論戦、市長も「慎重な対応」と答弁。統合時期の見直しで半年ほど話し合いが継続されましたが、最終的に保護者や住民の意向を無視して統廃合も決定されました。

●全国で広がっている三十人学級の問題で、積極的な取り組みをもとめましたが、市は、学級規模を小さくすることの意義すら認めない得意な立場に固執しました。

☆ミニ・ニュース☆

◆『新撰組フェスタ』は、大幅赤字

市長は黒字になったと発言しています。うのみにした新聞も、近藤勇の調布市は赤字で土方歳三の日野市は黒字と報道しました。たしかに歳入から歳出を引けば黒字ですが、歳入に占める入場料などの事業収入の比率は51%。都補助金、市負担などの税金投入が46%も占めています。普通は事業収入でまかなえた場合を黒字と言うのではないのでしょうか。延べ2000人以上動員された職員の人件費も、ここには計上されていません。

◆『定率減税の廃止に反対する意見書』を否決

共産党市議団が無会派の議員と共同で12月市議会に提案した上記の意見書は、自民、公明、市民クラブなどの反対で否決されました。

《2月の無料法律相談案内》

3日(木) 村松みえ子事務所 午後6時～8時  
 10日(木) 市役所6階・共産党控室 午後1時～3時  
 ※お問い合わせ 村松事務所 582-0504  
 中野事務所 599-3350

政治の流れをかえる年に

前都議会議員 村松みえ子

みえ子の  
飛びある記



新しい年が明けました。今年はいまは市長選挙、都議会議員選挙の年です。私は元旦、参拝の人の賑わう高幡不動の駅前で、弁護士の窪田さんと共に核兵器廃絶の署名の訴えを行ないました。

「新年早々ご苦労様。今年がんばって下さい」「私も地元でがんばります」など、元気のわく激励もいただきました。

いま、私たちがこうしているときも、イラクでは罪の無い人々の命がアメリカの爆撃によって奪われています。日本の政府がこれに追従する中で、一部の勢力が歴史を歪曲し、かつてのアジア侵略を肯定しようとしていることは重大です。石原知事のオール与党のもとで、都政は全国でも異常な憲法否定の流れが強められようとしています。私は「日野の街から憲法が生きる政治の流れをつくろう」と訴える窪田さんと共に、全力を尽くす決意です。

短信

「ひどい年でしたね」。暮れにお不動さんの境内の出店で正月飾りを求めたとき、そのおかみさんが言いました。「まったくねえ」という相槌が自然に出ます。さて、元旦は珍しく雪景色。昨年文字『災』を打ち消すようでした▼「貴方たち、広く有権者の支持を言うなら、もっと人の心をとらえる感性も必要だよ」。地域へ対話に入ると貴重なご指摘を受けます。情勢の発展に対応する力をつけることと合わせ、綱領や政策を紋切ではなしに、大勢の有権者の心とかみ合うような伝え方の工夫も大切です。これが参院選での教訓でもありました▼四月に市長選。六月には都議選。市長選は昨年中に窪田之喜弁護士擁立が決まり、都議選は村松みえ子前都議が捲土重来を期してフル回転です▼「政治が駄目なんですよ」「小泉さんも変えない」とは、くだんのおかみさんの弁。「でも代わりがないですかね」とも。いま、多くの有権者がもつ心情でしょう。道筋がハッキリ見えれば政治は動きます。真価が問われる年です。